

防災セミナー「地域防災力と避難所運営」

- 日時：2016年2月28日（日）10：30～16：30
- 会場：広島市中区地域福祉センター 5階大会議室
- 対象：一般市民（防災士等地域の防災リーダー）等
- 参加者数：75名
- 主催：広島市、日本損害保険協会
- 開催趣旨：

- ・2014年8月に広島市で発生した土砂災害では76名が犠牲となり、一時2,300名以上が避難した。
- ・講演を通じて「地域防災力」「被災した際の生活復興のイメージ」を伝える。
- また、避難所図上演習を通じて被災時に設営する避難所の運営を体験し、一人ひとりが自らの身を守る備えとする。
- ・地域の方々が助け合えるコミュニティをつくることで、被災時の被害を最小限にとどめる。

2015年度
地域防災力向上
取組み
in
広島

講演 1

広島市の防災対策について ～8.20 豪雨災害を踏まえて～

○講師：米田 泰治氏（広島市危機管理室 災害予防課長）

○概要：

- ①2014年8月の豪雨災害の概要
 - ②その後の広島市の主な対応
 - ③市民に求めたい災害への備え
- について解説がされた。

防災上の主な課題と本市の対応

- ・区役所の情報収集・判断体制の早期立ち上げ
 - 〇災害対応への組織体制の強化
- ・情報収集・分析の時間間隔の短縮
 - 〇防災情報共有システムの構築
- ・危険度判断基準の明確化
 - 〇メッシュ情報の活用
- ・避難情報の住民への周知と伝達
 - 〇危険度の段階に応じた避難情報の発信
 - 〇避難情報の発信と避難所の段階的開設
- ・夜間等における避難所の開設
 - 〇避難所運営の推進
- ・防災まちづくり事業
 - 〇わがまち防災マップの作成支援、リーダー育成

演習

避難所図上演習

○コーディネーター：宮下 加奈氏
（減災・復興支援機構 専務理事）

○概要：

最初に、避難所の開設・運営に関する事例が解説された。その後、4つの課題（①施設の使い方、②入所時の注意事項、③トイレの使い方、④避難所で起きる課題（乳児を連れた避難者への対応等）について11の班に分かれて演習を実施し、結果の発表と解説がされた。

最後に、演習を通じて避難所の自主運営の難しさと重要性について参加者に認識してもらえたとの講評がされた。

○参加者の声：

「ワークショップは多角的視点で実施され、これまでの経験を集約でき勉強になりました。」
「避難所運営基礎知識を今後活かしていきたい。」



講演 2

地域防災力向上の重要課題 について

○講師：松井 一洋氏（広島経済大学 教授）

○概要：

- ①防災意識の向上というスローガンを掲げる段階から具体的な行動を起こす段階であること
 - ②地域防災力向上のためには「防災コミュニティ」と「協働」を問題意識として持つべきであること
 - ③地域の多様な主体が協働し、相互に連携する新しい仕組み「地域協働体」が必要であること
- について解説がされた。

おわりに～新しい『地域協働体』へ

どんな災害においでも、地域社会がまず対応しなければなりません。

○日常的な防災（「防災と言わない防災」）
地域のイベントやお祭り、地区一斉清掃など、
人的な交流を豊かにする活動が大切です。

『隣のひとと目ごろからあいさつしていたこと、
それが最も大きな防災でした。』
（福井県大浜町 町民会長の発言）

■『新しいコミュニティのあり方に関する研究会』報告 報告書(2010/8)
地域の多様な主体が力を結集し、相互に連携・分担して住民ニーズに対応した公共サービスを効果的・効率的に提供していくための新しい仕組み（『地域協働体』と呼ぶ）が必要である。

講演 3

被災後の生活再建について

○講師：木村 拓郎氏（減災・復興支援機構 理事長）

○概要：

被災後の生活再建への大きな流れを、法制度や各種手続きを交えて解説された。また、避難所の暮らしについて過去の事例や問題点などを詳しく紹介された。

そもそも避難所とは？



- 被災者が次の住居が決まるまでの間、生活を営むための場所
- 被災者にとって生活再建のスタート地点となる場所
- 避難所として指定されている施設は、学校・公民館などが多い
- 対象者
災害により被害を受け、又は
受けるおそれのある人
（基本2週間、状況により延長可能）